

# 富津市公共交通ニュース vol.2

2018年9月

発行者：富津市企画課公共交通係（電話 80-1229）

## 9月20日は「バスの日」です

バスの日は、京都市で明治36年（1903年）9月20日に蒸気自動車を改造した6人乗りの車両でバス事業を開業した日です。

昭和62年（1987年）に全国バス事業者大会で、日本で最初にバスが走った日を記念して「バスの日」と決めました。

## 千葉県路線バス発祥の地は富津市!?

千葉県では、大正2年（1913年）に旧君津郡湊町の万歳館（旅館）が自動車部を設立して運行した木更津港～上総湊間のバス路線が県内初といわれています。

## ご存知ですか？ 路線バスのフリー乗降

路線バスは、原則としてバス停でのみ乗り降りできますが、交通量の少ない地域などで、乗客の安全な乗り降りと交通の安全に支障がないと公安委員会（警察）が認め、国に届出することでバス停以外での乗り降り（自由乗降、フリー乗降）ができるようになります。

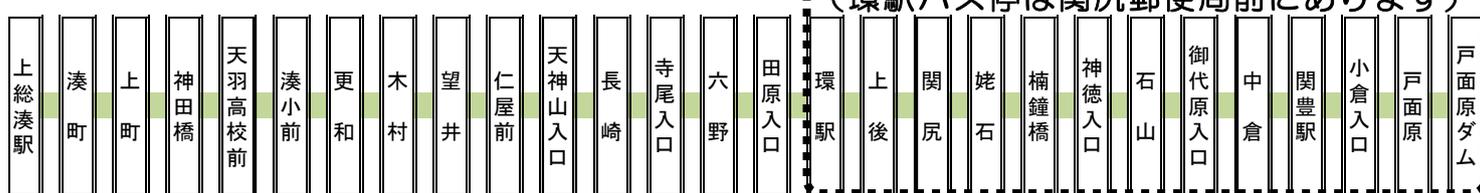
## 富津市内バス路線のフリー乗降区間

富津市内を運行する路線バスでは、下の路線の一部区間がフリー乗降区間です。

### 鹿野山線



### 戸面原ダム線



## フリー乗降区間の乗降方法

乗るとき：行きたい方向の道路脇など安全な場所で、路線バスの運転手に見えるよう手をあげます。

降りるとき：降車ボタンを押さずに降りたい場所の少し前に運転手に伝えてください。

※事故防止のため、曲がり角や見通しの悪い場所、交差点など他の交通に支障がある場合は停車位置が離れる場合があります。

## Q.なぜバスを小型にしないの？

富津市内を走る路線は、国県市の補助を受け運行を維持しています。

すこしでも経費をおさえるために、利用者の多い通勤通学時間帯は大型バス、昼間の利用者の少ない時間帯は小型のバスにしてはどうかとお考えになるかと思えます。なぜ、全ての時間帯に同じ大きさのバスが運行しているのでしょうか。

### 決まった時間に、誰でも利用できるように



路線バスは、誰でも決まった時間にバス停で乗降できるよう運行しています。

バス事業者は1回の運行に何人乗車するか、事前に把握することはできません。

把握するためには、利用予約を義務付けるなど、毎日利用する人にとって大変不便になります。

このため、どのバス路線においても乗客数に対応できる大きさのバスを運行し、「定員を超えるので乗車できない」ことがないように運行することが重要です。

また、利用者の人数に応じた大きさのバスを、時間帯ごとに運行する場合は、大小の車両を用意しなければならないため、台数分の費用がかかります。

### バスの運行費用

バスやタクシーなどの運輸業は、労働集約型産業（人件費の占める割合が高い産業）と言われており、運行経費のうち5～7割が人件費です。

これは人件費が高いということではなく、車両は自家用車に比べて短い間隔で点検整備し安全を確保したうえで長期間使用します。

廃車するまでに走行する距離を踏まえ1キロあたりの経費に換算すると、運行経費の中で占める割合は小さくなり、大型車両も小型車両も大差がなく、小型化による経費の削減は期待できません。

## 少しの利用が富津市の公共交通を育てます！

地域の公共交通は、交通事業者の企業努力や国県市の補助があっても、利用者が減少し続ければ、維持していくことは困難です。

仮に、現在利用している人に加え、バス停の300m以内にお住まいの市民（約2万5千人※<sub>1</sub>）が、2か月に1回往復でバスを利用すると年間で30万人の利用が増え、市内路線バスの赤字が0※<sub>2</sub>になります。

また、利用者の増加に対応するための運行時間の拡大や増便が検討できるようになります。

※<sub>1</sub> 昨年実施した公共交通に関するアンケートでバス停300m以内に住んでいる人の割合から試算

※<sub>2</sub> 国、県及び富津市が補助を行っている路線全体の利用者1人あたりの経常収益から試算

路線バスだけでなく、公共交通機関は多くの人にご利用いただくことでサービスの維持向上につながります。

今と将来の公共交通を必要とする人のため、公共交通の利用をお願いします。